

プレス・リリース

パリ、2011年7月12日(火)

コファス、事業環境評価を見直し 新興7カ国は格上げ 欧州2カ国は格下げ

コファスでは、新興諸国の着実な成長ペースが、2010年度に比べれば減速するものの、依然として続くと見ており、2011年度の成長率が5.7%になると予測しています。これとは対照的に、同時期の先進国における成長率予測は1.8%となっています。新興諸国におけるこうした明るい見通しと平行して、事業環境の改善も進んでいます。

そこでコファスでは、開始から4年を経た事業環境評価について、中欧、アフリカ、ラテンアメリカの数カ国について格上げを発表します。コファスによる事業環境評価の独自性は、国際的なネットワークを通じた信用保険および債権回収の専門能力を活かした独自の支払い実績データを活用している点にあります。

→ 中欧:事業環境が著しく改善

中欧3カ国の事業環境評価は、ポーランド(A3 A2)、リトアニア(A3 A2)、マケドニア(C B)が格上げとなりました。これら3カ国に共通している点は、企業財務情報へのアクセスの改善です。ポーランドとリトアニアについては、欧州連合への統合プロセスの恩恵を受けています。リトアニアではインフラが整備されました。一方、ポーランドでは規制の質が著しく向上して来ていますが、その要因としては、行政手続きと税制の合理化、ならびに銀行システムの監督改善があります。マケドニアは欧州連合への加盟を計画しており、汚職の解消や遵法意識の強化といったガバナンスの点で大きな進歩を見せています。

→ ギリシャとキプロスは欧州内で最低の格付けに

対照的に、ギリシャとキプロスの事業環境評価はA3に格下げとなり、欧州連合内で最低の格付け国に仲間入りしました。この両国を下回るのはルーマニアとブルガリア(A4)だけです。コファスは、財務情報へのアクセスが困難と見ており、企業の支払い動向の悪化が債権回収の困難さの増大を示していることに注目しています。またキプロスでは、銀行システムの不透明さも際立っています。

ギリシャ(B)とキプロス(A4)は、カントリーリスク評価の点でも1段階の低下となりました。この格下げは、ギリシャのソブリン債務危機がさまざまな経路を通じて同国の企業に与えている影響を反映しています。つまり、企業は銀行融資を受けることが困難になっており、仮に受けられたとしても金利が高くなっています。リセッションが深刻化するにつれてマクロ経済環境は悪化しています。最後に、企業は緊縮財政政策の矢面に立っており、場合によっては、ギリシャ政府による対民間債務の返済遅延につながりかねません。さらにコファスは、2011年のギリシャ企業の支払い動向の悪化にも注目しています。キプロスのカントリーリスクが増大したのは、同国の銀行がギリシャのリスクにさらされているためです。

→ アフリカとラテンアメリカ:財務データの信頼性が向上

コファスはコロンビアの事業環境評価を、財務データのアクセスと信頼性の点で、1段階引き上げてA4としまし

た。これによってコロンビアは、新興諸国の平均を上回り、ラテンアメリカでは首位となりました。コファスは、同国の汚職が根強く残っているものの、厳格な税務監査により、財務情報の信頼性が向上していることに注目しています。

サブサハラ・アフリカでは、ガーナ(C B)、モザンビーク及びタンザニア(両国ともD C)の3カ国で、事業環境評価が引き上げられました。これら諸国の格上げは、一つには腐敗対策の進捗によるものです。ただしコファスは、モザンビークとタンザニアの両国では法的義務がそれ程厳しくないため、財務情報へのアクセスが難しいと見ています。その点、ガーナは著しい前進を見せていることが、世界銀行によってランク付けされている212カ国の中で平均を上回っているという事実によっても裏付けられています。

→ 中東: 制度環境に「アラブの春」の影

バーレーンはA3からA4に格下げになりましたが、その背景には「アラブの春」があり、権力層に対する国民の強い憤りが政府の効率性を阻害しています。バーレーンは依然として新興諸国の平均を上回っていますが、コファスは、財務情報へのアクセスが悪化している、と指摘しています。

イヴ・ズロトウスキ(コファスのチーフエコノミスト)の見解 「2007年に事業環境評価を開始して以来、コファスは約10カ国について評価を見直し、それによって、新興諸国の企業の支払い実績の改善を反映させて来ています。新興諸国7カ国が格上げとなったことは、新興諸国のカントリーリスクが徐々に改善されているというコファスの見解を裏書きするものです。これは、経済状況の回復のみによる改善ではありません。これらの国におけるより構造的な進展、つまりガバナンスの改善によるものでもあるのです。」

コファスとは

コファスは、4つの基幹事業 - 信用保険、企業情報、売掛金管理、ファクタリング - を通じて、135,000社に上る顧客から、各社の与信管理の一部または全てを受託することによって、世界中における企業間取引の促進に寄与しています。世界66カ国6,600名のスタッフが提供する現地サービスにより、世界の大企業グループ上位500社のうちの45%以上が既にコファスの顧客となっています。

コファスは現在Natixis(ナティクス銀行)の子会社ですが、同グループの自己資本は2010年12月現在で122億ユーロとなっています。

本リリースに関するお問い合わせ先

コファス・サービス・ジャパン株式会社
 コマーシャル本部広報担当
 ジョナタン・ペレズ

Email: marketingjp@coface.com
 Tel: 03-5521-2175 / Fax: 03-5521-2179

付属資料

コファス・カントリーリスク評価

この評価は、商取引という枠組みの中で一国の企業が提示するリスクの平均的レベルを表すものですから、国債には適用されません。この平均が変化したからと言って、各企業のスコアが直ちにそれに左右される訳ではなく、各企業のスコアはあくまでも各社独自の特徴によって決まることに変わりはありません。したがって、名前の挙がった一国に存在する企業と取引している場合は、コファスにその企業についての個別の評価を行なって貰う必要があります。

コファス・事業環境評価

この評価は、コファスの総合カントリー評価の一要素であり、一括公表(parallel publication)の対象となっています。事業環境評価では 156 カ国について、企業に関する情報の入手し易さと信頼性、また債権者に与えられる法的保護を評価し、制度環境の質的レベルを考慮しています。評価は、リスクの小さい方から A1、A2、A3、A4、B、C、D という 7 段階になっており、A1 が最もリスクが低いことを示しています。

カントリーリスク評価の変化

	国名	2011年3月	2011年6月 決定
欧州	ルクセンブルク	A1↓	A1
	キプロス	A3	A4
	ギリシャ	A4	B

事業環境評価の変化

	国名	2011年3月	2011年6月 決定	国別 格付け
欧州	リトアニア	A3	A2	A4
	ポーランド	A3	A2	A3
	キプロス	A2	A3	A4
	ギリシャ	A2	A3	B
	マケドニア	C	B	C
ラテンアメリカ	コロンビア	B	A4	A4
中東 / アフリカ	バーレーン	A3	A4	A4
	ガーナ	C	B	C
	モザンビーク	D	C	B
	タンザニア	D	C	B